

誰得短編集

ネメシス・アンブレラ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

誰かが得する短編集

クロスオーバーから短編に変えました

目次

幼女戦記×異世界居酒屋『のぶ』	1
おっさんin聖女	6
いたずらっ子な天災	10
絶対に笑ってはいけないロキ・ファミア(ネタのみ)	13

幼女戦記×異世界居酒屋『のぶ』

最近帝国軍人たちの中で噂になっている店がある。

曰く、料理が美味い。

曰く、見た事の無い料理が出てくる。

曰く、ビールがどんな店よりも美味しい。

曰く、変わった見た目の店だ。

と、様々な噂が後を絶たないでいた。

その噂を確かめるために彼女：ターニヤ・デグレチャフが件の店へとやって来た。

ターニヤはその店の看板を見て目を見開いた。

何故ならそこにはこの世界では絶対に見る事が出来なく、尚且つ彼女の嘗ての生まれ故郷の文字、日本語で書かれていたのだ。

『居酒屋のぶ』と……。

彼女は考える。

何故、嘗て自分が生きていた世界の文字がこの世界で使われているのか？と

彼女は指を顎にあて、可能性を探す。

1つ、自分と同じようにこの世界に生まれた何者かがこの店を経営している。

2つ、存在Xの差し金。

3つ、嘗て同僚が読んでいた異世界転移と言う小説の様に店ごとこの世界に来てしまったか。

考えれば考えるほど分からなくなってくる。

「まあ、この店に入ってみれば分かるか」

「あれ？デグレチャフ少佐？」

不意に名前を呼ばれ、声のした方を向く。

そこには自分が率いる大隊の1人で、唯一の女性隊員である、ヴィクトーリヤ・イヴァーノヴナ・セレブリヤコフ少尉、通称ヴィーシャが居たのだ。

「ああ、少尉か。奇遇だな」

「どうしたんですか？こんな所で」

ヴィーシャはターニヤが向かおうとした先を見る。

その先には最近噂になっており、自身も暇な時にはやって来る店があったのだ。

ヴィーシャはすぐに彼女がこの店へやって来たのだと思い至った。

「ああ！少佐もこのお店に来たんですね!？」

「あ、ああ……。まあ、今日が初めてだが……」

ヴィーシャの勢いに若干引きながらも答える。

「あーじゃあ私がお店を案内しましょうか？」

ターニヤは自分で出来ると言おうとしたがよくよく考えてみればこんな時間に子供が1人でやって来るのはおかしいだろう。

その上、自分はこちらの世界の住人だ。向こ^日うの世^本界の作法や食器の使い方を知っていれば怪しまれるだろう。

それらの事を考慮し、何度もこの店に来ているだろうヴィーシャに教えを乞う方が自然だろう。

「ああ……。よろしく頼む」

故にターニヤはヴィーシャに案内を頼んだ。

「じゃあ、早速入りましょう!」

ヴィーシャはのぶの戸を開けて中へと進む。ターニヤもその後が続いていく。

店の中はそれなりに繁盛しており、がやがやと騒がしかった。内装はやはりターニヤの知る日本家屋のような造りだった。

ヴィーシャ達が入店したのを見つけ黒髪の女性店員が出迎える。彼女の顔は明らかに日本人の顔つきであった。

「いらっしやいませ！お二人様でよろしいですか？」

「はい！」

「では、カウンターへご案内します！」

ターニヤが店の内装を見ている間に座るべき場所へと案内されていたようだ。

「トリアエズナマ一つと、この子に何か美味しい飲み物を！」

「はい、生一丁と飲み物ですね少々お待ち下さい」

「少尉、流石に注文は一人で出来るし、この子扱いは無いだろう？」

「あ、あはは。きよ、今日は無礼講って事でお願ひします」

ヴィーシャは冷や汗をかきながら許しを請う。

ターニヤは「まあ、偶にはこういうのも良いだろう」と思いながらフフツと笑う。

ヴィーシャはその笑顔を見て「お、お仕置きされる！」と顔を青褪めさせ心の中でガタガタと震えていた。

「生一丁とオレンジジュースお持ちしました〜！」

黒髪の女性店員が先程注文した飲み物を持ってやって来る。

ヴィーシャの前にビールが入ったジョッキを、ターニヤの前にオレンジジュースが入ったグラスを置く。

ヴィーシャはジョッキを掴み、恐る恐るターニャへと向ける。

「ええつとお…。カ、カンパ〜イ」

「ああ、乾杯」

「!？」

ヴィーシャはターニャは乾杯などしないと思っていたが、ターニャが自分のノリに乗ってきた事に対して驚いた。

内心で「え？お前の最後の晚餐なんだ。ゆつくりと楽しむが良いって意味で乾杯したの!？明日死んだな…」と考えながら恐怖し震えていた。

対するターニャは無礼講なんだから乾杯ぐらいやってみようかと言いう軽い気持ちだったのだが。

震えているヴィーシャを心配したのか女性店員が話しかけてくる。

「ヴィーシャさん？なんだか汗が凄いですよ？」

「い、いえ？な、何でもありませんよ？シノブさん」

シノブと呼ばれた店員は「そうですか？」と首を傾げながら言う。

「あーシノブさん、タイショーさん！この方はターニャ・デグレチャフ少佐と言って、私の上官なんです！

少佐！こちらの方はシノブさんと言って、カウンターの奥にいるのが店長のタイショーさんです！」

ヴィーシャは空気を整えるように素早く3人を紹介する。

ターニャ達もお互いに自己紹介をする。

…：ターニャが軍人、しかもヴィーシャの上官と知って2人は驚いていた。

ターニャ達が頼んだのは本日のオススメというものだった。

ヴィーシャは来る度に変わるためこれがヴィーシャの楽しみと

なっていた。

「はい、『本日のオススメ』のおでんだ」

「オデン？」

「ほう？」

タイシヨールから出されたのは冬場にはよくお世話にもなるであろう料理『おでん』だ

ターニヤ自身もおでんは嫌いではないため、おでんが出てきた際に目を輝かせた。

「わあく！美味しそうですね！少佐！」

「少尉、あまり大きな声を出すな。他の客に迷惑だ」

「す、すいません……」

タイシヨールやシノブはそれを見てはしやぐ妹とそれを宥める姉に見えた。

……年齢的には逆なのだが。

おでんを食べ終え、店を出たターニヤ達。

「少尉、今日は充実した夜だった。また来よう」

「はいー！」

おっさん in 聖女

クラス：アヴェンジャー

真名：ジャンヌ・ダルク・リベンジャー

見た目：ターニャ・デグレチャフに邪ンヌの甲冑を着せただけ

性別：女

身長・体重：144cm・43kg

出典：史実（平行世界）

地域：フランス

属性：混沌・悪

ステータス

筋力：D 耐久：C 俊敏：A 魔力：EX 幸運：E 宝具：A

クラススキル

復讐者：A

忘却補正：D

自己回復：C

保有スキル

神嫌いの聖女：A

「神性」のあるもの全てに弱体耐性のダウン（1ターン）

カリスマ：A+

味方全体の攻撃力アップ（3ターン）

術式展開：B

自身のNPをもものすごく増やす

宝具

『ラ・クレラ・ノーツ・フレア我が神への怒り』またの名を『存在Xブチコロス』

対軍宝具

敵全体に大ダメージ&味方のNPをチャージ&味方の攻撃力アツ

プ

セリフ

召喚時

「アヴェンジャー、ジャンヌ・ダルクだ。ああ、言っておくが私は平行世界のジャンヌだ。こっちの事は知らん。」

会話1

「神を信じるか？そんな非科学的な物いるわけが無いだろう、一億歩譲って存在Xだ。」

会話2

「ハア、コーヒーが苦い。この子供舌め。」

会話3

「ん？何故いつも武器を持っているかだと？いつでも存在Xの頭に風穴を開けるためにだが？」

戦闘開始

「さて、戦友諸君！戦争の時間だ！」

勝利時

「状況終了、帰還するぞ。」

敗北時

「存在Xに災いあれ！」

スキル使用

「死ね、すぐ死ね、今死ねえ！」

「うむ、いいだろう」

カード選択

「さて」

「ほうほう」

「いい選択だ」

宝具カード

「さあ、敵よ。死ぬ準備は出来てるか？」

攻撃時

「セイッ！」

「フッ！」

EXアタック

「失せろ！」

絆セリフ

1 「マスター、私の前で神に祈ったりするなよ？ っていうっかり殺してしまいかもしれん」

2 「マスター、体を鍛えたらどうだ？ 何なら生前私が部下達にした訓練法をしてやろう。なに、36時間ほど砲弾の雨に降られるだけだ」

3 「ふう、武器の手入れは疲れるな。マスターもやってみるか？ ……冗談だ」

4 「クアア、眠い。流石に昨日は寝なさ過ぎたな。今度作戦を練るときは夢中にならないようにせねばな、マスター」

5 「頭を撫でるのは構わんが、子ども扱いはよしてくれ。精神的な年齢や、私が死んだ時の年齢はマスターより上なんだが。 ……別に嫌と言
う訳ではない」

好きなもの
「好きなもの？ コーヒーだな」

嫌いな物
「嫌いなもの？ 存在Xに決まっている。もしくは神を自称する存在全てだ」

聖杯について
「何でも願いが叶うなら、私が願うのはただ一つ。存在Xに災いあれ！」

ジャンヌとの会話
「貴女は主を信じないのですか？」

「存在Xは貴様の言うような、優しいカミサマとやらじゃないな」

邪ンヌとの会話

「存在X？ 何よそれ」

「言語が理解できるのに言ってることが支離滅裂な害悪だ」

ジャンヌ・ダルク・オルタ・サンタ・リリイ

「メリークリスマス！」

「狂信者のお次はクリスマス狂いか、ジャンルが豊富だな。こっちの私は」

ブリュンヒルデ

「ヒヤッハー！小さいお姉様だあああああ!!」

「寄るな、触るな、キャラ崩壊するなあああああああ!!」

黒髭

「ヒヤッハー！幼女キター！」

「さっきも似た奴と会ったぞ！ここには変態しかいないのか!？」

ジル・ド・レエ

「おお、ジャンヌ！例え平行世界でも貴女は聖女なのです！」

「こんな奴、いたか？」

「ゲフツ!？」

「ジルが死んだ!」「この人でなし！」

「私が悪いのか!？」

いたずらっ子な天災

「にゅや？このリストは何ですか？」

「ああ、それは今度E組落ちるに入る生徒についての注意事項ですよ。是非読んでおいてください」

彼はちよつといたずらっ子なので、と言って浅野理事長は旧校舎の職員室から出て行った。殺せんせーはリストを見る

名瀬が櫛ヶ丘市でやってはいけないこと

1. 周りの人間が急に黙ったのは「何やってんだコイツ!？」という驚きであって「どうぞ続けてください」という意味ではありません

2. 浅野君の机の上に父子ものの成人向け同人誌を置かないで下さい

3. 理事長室にある理事長の私物でガ○ダムを組み立てないで下さい。というかどうかどうやって組み立てたんですか

4. 調理実習に塩酸やら王水やら人体に害がある物を混ぜようとしてしないで下さい

5. 小山君の髪をワカメに置き換えた写真を教室に飾らないで下さい

5-1. 小山君に直接渡すのも認められません

6. 荒木君に「お前って何か普通だよなー、はつきり言って個性が無い」と言って小山君をモヒカンにした事は許しません

7. 皆の目の前で教卓を戦闘ロボに変形させないで下さい

8. スカイダイビングで登校しないで下さい

8-1. 自作の戦闘機でもです。ていうか自作できるわけ無いだろ！

8-2 アフリカゾウに乗ってくるのもダメです。動物に乗ってく

るのもダメです

9. 瀬尾君の下唇を削ごうとしないで下さい。気持ちは分かりません

9-1. 分かるって何だよ!?

9-2. 書き込みは認めてますがツツコミは無しです

10. 新藤君に人体改造を施す事は認められません

10-1. 以下の人体改造を施そうとしないで下さい

a. 右腕をボール射出機に改造

b. 全身をゴムに改造

c. 足をキヤタピラに改造

d. 背中にロケットブースターを取り付ける改造

e. 目からビームが出るようになる改造

f. 腕を四本にする改造

g. 第三の目を取り付ける改造

11. 新入生にE組は貴方が改造した改造人間の集まりだということ?を教えないで下さい

12. 確かにこのリストはSCPの『ブライト博士の禁止リスト』を参考にしていますがSCPを作り出そうとしないで下さい

12-1. 作るなつたろうが!!

13. 理事長の机に父子ものの成人向け同人誌を置くべきではありません

14. エ○アン○リオンを作り出すためにセカンドインパクトを

起こそうとしないで下さい

15. A組のレベルアップのために生徒の脳を改造するのは認められません

16. プールの水を一瞬で熱湯にする事は誰も居ない時にして下さい

17. 貴方のよく分からない科学力を皆に見せないで下さい

a. ラーメンの麺で黒髪のかつらを作る

b. たくあんと餅でストローを作る

c. 練り山葵とからしでスニーカーを作る

- d. 昨日の夕食の余りもので言語翻訳機を作る
- e. 納豆で触手っぽいなにかを作る
- 18. 理事長の写真を不倫現場みたいに編集して理事長の家の机の上に置かないで下さい
- 19. 仏像の写真の顔を佐渡先生にカラージュしないで下さい
- 20. 榊原君の髪型を左右逆にししないで下さい。気づいたのは私だけだったようです
- 21. 防衛装置として戦車を置く事は認められません
- 22. テンションが上がってもクトゥルフを呼び出す事は認められません
- 23. いくらムカつくからと言って大野先生の車を痛車（画像は成人向け）に改造しないで下さい。グツジョブです
- 24. 修学旅行の際に他校の生徒で実験しようとししないで下さい

「……………これをイタズラで済ませていいんでしょうか……………」

絶対に笑ってはいけないロキ・ファミリア（ネタのみ）

迷宮都市オラリオ。

その中心に建つ塔、バベルに集う五人の冒険者。

この冒険者達の名をここに記そう

『アイズ・ヴァレンシユタイン』

『レフイーヤ・ウイリデイス』

『ティオネ・ヒリユテ』

『ティオナ・ヒリユテ』

『ベート・ローガ』

今宵この五人に笑いの刺客が襲い掛かる!!

~~~~~

『設定』

ロキ「よし、皆には着替えてもらうで〜」

アイズ「?何で?」

ロキ「皆にはロキ・ファミリアの新人冒険者として訓練してもらうからや」

ティオナ「訓練って何の訓練なの?」

ロキ「よう聞いてくれた!訓練内容とは……24時間笑わない訓練や!」

ベート「……帰るか」

ティオネ「そうね」

ティオナ「あたしお腹空いたー」

レフイーヤ「え?えつとお……」

ロキ「因みに一番笑った回数が少なかったら、どんな願いも叶う限りなら叶えたるで〜」

アイズ以外「乗った!」

アイズ「!?!」



『着替え』

《金色の新人冒険者 アイズ》金ピカ装備

《重装備新人冒険者 ティオネ》顔以外ガチ装備

《いつも通りの新人冒険者 ティオナ》普段の服

《魔法使いの新人冒険者 レフィーヤ》魔女のローブと三角帽子

《踊り子 ベート》女性が着たらエロい踊り子の服

ベート「……」

アイズ「……」プルプル

ティオネ「ぷっ、くふふ」

ティオナ「あっはははははははは！」

レフィーヤ「フッフッフ。す、すみませッフ」

《デデーン！》《アイズ、ティオネ、ティオナ、レフィーヤ、アウト》

皆「え？」

《ケツを黒子達にシバかれるアイズ達》

ロキ「あ、笑ったらケツをシバかれるで〜」

皆「そう言うのは先に言え！」

『ロキ・ファミリアの団長』

フィン？「ようこそでガス。ワイはロキ・ファミリア団長のフィン・  
デIMUMナでガス」

《前歯が出っ張り、糸目のフィンと名乗る謎の小人》

《デデーン！》《アイズ、ティオネ、レフィーヤ、ベート、アウト》

『アイドル』

ロキ「そうや、このファミリアにはアイドルがおるんや。この後

ショーがあるから見に行くで」

《外に出た一行。そこにはフリフリの衣装を着た、歌うアイドル》

リヴェリア「~~~~~♪」

《デーン！》《全員アウト》

『モンスター？の子供』

レフィーヤ「あの、コレ食べます？」つじやが丸くん

モンスター？「！レフィーヤ、は、親友」ユビサキピカー

《デーン！》《全員アウト》

『制裁のビンタ1』

オツタル「オツツツツタルツツツツ！！！！」

ロキ「もしこの中にモンスターの子供をつれて来た奴がおったら、オツタルの制裁のビンタをしてもらおうで」

レフィーヤ「ひえっ」

『制裁のビンタ2』

オツタル「お前かっ！」

レフィーヤ「違います人違いですエルフ違いですきつと私じゃない  
エルフの誰かが連れて来たんですよ！」

モンスター？「レフィーヤ、は、親友」

オツタル「と言ってるが？お前、レフィーヤだろ」

レフィーヤ「違います、私はレフヤーイです」

《デーン！》《アイズ、ティオネ、ティオナ、ベート、アウト》

《結局ビンタされた》

『ドワーフキック』

ガレス「ほら、逃げるな。別の場所に当たるぞ？」

ティオナ「いやいや！死ぬから！ガレスにキックされたらあたし死んじや《ズパーン!!!》うん！」

《デデーン！》《アイズ、ティオネ、レフィーヤ、ベート、アウト》

おわり